

お知らせ

祝

おめでとうございます！

成人式♪

就労移行支援事業所で就労に向けて訓練をしています。育ててくださった親や地域の方々、支援して下さった方々に恩返しができるよう頑張っています。



堤翔平さん

成人しましたー西中学校のみんなに会えてうれしかったです。第二八女作業所ではみかんの皮むき、ほうれん草やしいたけの選別、線香のゴム外しの仕事をしています。これからもがんばっていきます。



森瑞樹さん



リーベル通信

発行責任者:NPO法人 リーベル
電話:0943-22-2610
FAX:0943-22-2664

住所:八女市本町17-2
E-mail:liber-yame@marble.ocn.ne.jp
URL:http://liber-yame.net

あいさつご挨拶



NPO法人リーベルセンター長 大塚博嗣

皆様、まだまだコロナが収束しませんが、これからの生活の在り方については「ウィズ コロナ(コロナとともに)」の意識が必要なのかもしれません。令和4年ですが、障害者福祉についても一つの動きがありそうです。障害者総合支援法の施行後3年間の施行状況を踏まえ「障害者が希望する地域生活を実現する地域づくり」「社会の変化に伴う障害児・障害者のニーズへのきめ細かな対応」「持続可能で質の高い障害福祉サービス等の実現」の3点を基本的な考えとして、様々な論点が交わされています。今年度中にはいくつかの変更点が示されるそうです。動向や変更については、当事者・障がい福祉サービス事業所とともに内容を確認し、対応していきたいと思えます。

今年も、NPO法人リーベルは障がい児者支援の多くの役割を期待されています。私達リーベルは、それらに応えていきたいと考えています。リーベルだけで期待される結果を出していくことは難しく、関わっていた関係者(機関)の皆様とのネットワークが不可欠であると日々感じています。今後も今まで以上に皆様とのネットワークを深め、より良い支援を提供していけるように、どうぞよろしくお願いいたします。

NPO法人リーベルのリーフレットが完成しました！



令和4年1月末、新しいリーフレットが完成しました。今回のリーフレットは、リーベル通信第45号でも紹介した、福田智博さんに作成を依頼。作りたいリーフレットのイメージを福田さんに伝え、それを形にしてもらいました。福田さんと、福田さんが利用している就労支援事業所の方と、デザインや色合いなどを何度も何度も見直しては修整を重ね、完成に至りました。リーベルの理念にある共生や寄り添うといった優しい気持ちが、表紙の木と青い鳥に込められています。

NPO法人リーベル

障がいを持つ方の生活上の困りごとを一緒に解決していきます。

私たちにご相談ください。

- 相談は無料です。
- 個人情報厳守します。
- 公平性・中立性を確保します。

～編集後記～

寒さも和らぎ春の気配が感じられる昨今、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますようお祈り申し上げます。くれぐれもお体にはご自愛ください。(K・I)



自粛生活の中で、発信、発見しづらい現状にありますが、障がい者が虐待を受けたり受けている所を目撃した際はお電話ください。

八女市障害者虐待通報ホットライン

★24時間・365日の対応

☎090-2580-0294



れいわ3ねんど やめししょう しゃぎやくたいぼうし
令和3年度 八女市障がい者虐待防止・
 けんりようご WEBけんしゅうかい
権利擁護 WEB研修会

れいわ ねん がつ にち まいにちほうそう ほうどうきよくたんとうきょくちゅうけんかいせつふくいんちゅう かんべかねがみし こうし むかえ けんしゅうかい かいさい
 令和4年2月16日、RKB毎日放送 報道局担当局長 兼解説副委員長の神戸金史氏を講師に迎え、WEB研修会を開催
 しました。(参加者:33事業所 62名)

こうし かんべし じへいしゅう こ ちちおや ほうどうきしや たほうめん かつやく かつた
 講師の神戸氏は、自閉症の子どもをもつ父親であり、報道記者として多方面でご活躍の方です。
 ちちおや として 子どもの 障害受容の 難しさ、「障害者は生きる意味がない」と言い切り相模原障害者殺傷事件を起こした
 植松死刑囚との接見を通して、植松死刑囚の 考えや、その背景、私たち障害福祉に携わる者へのメッセージなど頂きました。
 映像・音声・音楽が盛り込まれた 90分でした。

「おはよう」と長男が起こしにくる、障がいではなかったという夢を見続けた…。
 ひ たいへん とう とき 喜び、
 日々の大変さから、その様な気持ちを持った時期…。長男の言葉にならない思いや小さな成長が分かった時の喜び、
 その積み重ねを経て今の自分があるんだと思う様になった事。

「障害は個性です」という支援者の言葉が嫌だった…。
 持たなくて良いものを個性とは言わない。個性と言わないでほしい。
 個性という表現を受け入れられなかった過去…。

障害を受容する(受け入れる)。それは…支援者が思うよりもっともっと時間がかかるもの…。本人との関わりや沢山の
 事と一緒に経験することで深まっていくもの、終わりが無いものだと神戸氏の話から感じる事ができました。

自閉症児の取材の中で対応の厳しさや難しさ、母親が心中を覚悟する程の思いを持っていることを知った時の衝撃。
 養護者虐待の背景にあるもの—。
 植松死刑囚との接見を再現した音声では、無機質な部屋で対面している情景が目の前に浮びました。淡々と「気づいて
 しまったから仕方がない。」「障害者は生きる価値がない。」「障害のある子どもを見て泣いている母親、母親のために
 障害者はいなくなれば良い、まっとうなことをした。障害者に喜びはない。」そう語る植松死刑囚。

なんと浅はかな考え、ほんの一場面から、飛躍し暴走した思い・行動。歪んだ考えへの 憤り。
 植松死刑囚は、元福祉施設職員だった。どんな働き方をしていたのか？ 教育を受けていたのか、やりがいや、達成感
 があったのか？ 施設にも責任の一旦があったのではないかと神戸氏は語気を強められた。

閉鎖的な施設の中で、支援の難しさゆえに、日課をこなすことだけに必死になっていけば…大変さや愚痴ばかりこぼして
 いれば…一人の人としての認識がなくなるかもしれない。大変なことも多いが、当事者の方々が出来たことを語り合い、
 共に喜び分かち合い…。大変さだけに目を向けず、プラスの働き方をしたい。

障害者が生きる価値のある存在であり、それを支援する喜びを持ち誰かと共有する。
 それが虐待防止につながるのではないかと理解する事ができました。
 どの施設にもありうること、身近なところに虐待の芽があるのかもしれない。

神戸氏の詩に曲が付き、歌に合わせて障害のある方々の写真がアップ。以前と現在の写真の2枚組。数年、数十年のあ
 ゆみ。子どもの成長や親のあたたかさ等 様々なことが想像でき、かけがえのない存在と感じました。

研修を通して、白頃の支援を振り返り、虐待や
 不適切な支援への認識の再確認ができました。
 権利擁護への意識の向上に努めたいと思います。
 また、神戸氏より紹介頂いた映像は、ネット上
 で閲覧ができるため、ぜひ、活用して頂きたい
 です。



りょういくがくしゅうかい
『療育学習会』



れいわ ねん がつ にち にち りょういくがくしゅうかい かいさい
 令和4年1月11日、20日に『療育学習会』を開催しました。
 いっぱんしゃだんほうじん しゃかい ふくしし じむしょ おちあひりょうすけ
 一般社団法人いけだ社会福祉士事務所から 落合亮介さん
 を講師に迎え、11日に障がい児サービス事業所向け、20日に
 保護者向けに、療育とは？発達障がいとは？など盛りだくさ
 んの内容で講話していただきました。

おちあひ げんざい けんり しようごきょうむ ふくさう こくりつびょういん りょういく しどう たずさ
 落合さんは、現在、権利擁護業務をされていますが、これまで複数の国立病院にて療育指導に携わって
 来られた経歴をお持ちです。その経験から事業所や家庭でも、すぐにでも実践できる感覚に働きかける遊びや
 子ども 発達段階を知るためのアセスメントツールの紹介等、沢山のことを教えていただきました。

ほごしや かつた こども じりつ いそん ちから こま だ
 保護者の方に「子供が自立していくためには依存していく力をつけること、困っているときにSOSを出せる
 場所を作っていくことが大事」と話され、SOSを出された時にも発達支援のプロ(専門職)として障がい児サー
 ビス事業所が支援を行なえる関係性になればいいなど改めて思いました。

さん かしや かんそう ないよう こ おも きょう かんが かつた と い こうどう
 参加者の感想からも内容の濃さがうかがえるとあります。『今日から考え方に取り入れられるもの、行動とし
 て実践できるもの、分析・アセスメントに活用できるツールなどをご紹介いただき実践しやすいと思いました。』
 『基礎感覚に働きかける遊びや動作法、コラージュ療法など、すぐに実践できそうな関り方を知れて良かった。』

じりつ ひと たよ ちから
 『自立するためには人に頼る力をつけるということがわかりました。』
 りょういくがくしゅうかい やめし しょう し こうじょう つな きたい
 この療育学習会が八女市の障がい児サービスの向上に繋がっていくことを期待しています。

ねんど こうど
2021年度ペアレント・トレーニング講座

こんねんど かんせんしんしょう きんきゅう したいせんげんなど ねんど かいこう えんぎ く かえ がつ ことし がつ
 今年度はコロナ感染症による緊急事態宣言等で何度も開講延期を繰り返し、やっと10月スタート、今年1月
 に修了することができました。

ペアトレとは、子供の行動変容を目的として、親がほめ方や指示の出し方など、ホームワークやロールプレイを
 とお 積みあげながらスキルを身につけることを目指すものです。受講することで「子供のできていないところ
 ばかり気になっていたが、できていることが多いことに気付いた」などお子さんの
 見え方も変わってきます。

今年度ペアレント・トレーニングを修了したお母さんの声です。
 『以前からペアトレに関心を持っていましたが、今回思い切って受講して本当に良かったと思えました。子供が
 成長するにつれ、自己主張もできるようになり、難しいと思っていた好ましくない行動への対応方法を、細かく
 分かりやすく学ぶことができ、私 が声掛けの仕方を変えることで、親子のやり取りがスムーズになるのを実感しま
 した。これからも学んだことを少しずつ実践していこうと思えます。』 (K・Nさん)



令和3年度リーベルネットワーク合同

WEB研修会

令和3年8月2日、八女市教育委員会共催にて、リーベルネットワーク合同研修会を開催しました。

「事例から見る障害福祉と教育機関の連携」をテーマとし、社会資源として、八女市教育委員会、福岡県発達障がい者支援センター(筑後地域)あおぞら、福岡県障がい児等療育支援事業地域支援センターよろず屋、八女市障がい者基幹相談支援センターから各事業所の機能や利用の仕方等についての紹介があり、八女市は障がいについて相談できる機関に恵まれていることを改めて知る機会となりました。

後半は、リーベルがこれまで支援した事例をあげ、教育機関からは『教室の中で「目立たない子」にも、きちんと目を向けなければと、改めて勉強になった。』『外部との連携、切れ目ない支援という意識は学校現場では具体的なものに繋がっていない。今回の連携した支援の全体像紹介は、支援学級担任などの悩み、心配される状況が、解消へ一歩でも進むことに繋がると思う。』等の感想が聞か

れ、福祉事業所からは『障がいのある子ども達も、この地域で沢山の友達と一緒に成長してほしい。その為にも教育と福祉の連携は必要。』『計画相談業務では、小学校へ就学する時、小・中・高校卒業時、節目節目で丁寧に繋いでいくことが大切。』等の感想が聞かれました。

感想からわかるように教育機関と福祉事業所の相互理解が深まったものになりました。

福祉 教育



アウトリーチ部会

アウトリーチ部会は「ひきこもり支援」について協議を行う部会です。福祉課、子育て支援課、地域包括支援センター、すいれん、社会福祉協議会、筑水会病院、南筑後保健福祉環境事務所、福岡県ひきこもり地域支援センターと多領域から集っていただき、相談員のスキルアップや領域を超えた連携の在り方について検討しています。

11月10日の部会では実践研究をリモートで行い、支援機関に繋がりにくい事例を通して実践の共有、関わり方や連携へのアイデア出しを行いました。一機関だけでは、思いもつけないようなアイデアが出て、多機関連携によるアプローチの必要性を感じています。

アウトリーチ部会で多機関とのネットワークも出来上がりつつあります。来年度は、この部会を通して体制整備につなげていく予定です。



ちいきかつどうしえん 地域活動支援センター かたろい

早いもので、昨年の4月にオープンしてから1年が経とうとしています。これまで多くの方々に利用登録をしていただき、新しい出会いやイベント事など様々な過ごし方を楽しんでもらっている場所になっています。どんな方が利用しているのかなど気になっている方もおられると思いますので、これまでの利用状況を報告させていただきます。

登録者は令和4年2月28日の時点で67名おられ、オープンしたばかりの4月と5月に登録者が集中した以降は毎月2~3名のペースで登録者が増えています。登録者の半数以上である36名は地域活動支援センターの利用が初めての方になっています。

平日の午前中は利用者が少なく、午後から仕事を終えた方などが利用され、徐々に賑わっていく傾向にあります。土日はニーズが高くなり開所時から多くの方々に利用いただいています。

障害種別ごとの登録者数は重複を含めて、身体5名、知的31名、精神29名、発達6名となっており、知的と精神の方の登録が多いことがわかります。男女別の登録者数は男性52名、女性15名で圧倒的に男性が多くなっています。女子会(女性職員とテラリウムやクッキー作り等)を行い、女性が利用しやすい空間を作っています。

コロナウイルス感染防止対策として、入館時の検温と消毒、マスクの着用を徹底しています。さらに、定期的な換気と消毒、飲食の制限、利用人数の制限を感染状況によって臨機応変に対応しています。

これまでのイベント

カレーフェスティバル

令和3年8月

ハロウィン2021

令和3年10月

軽スポーツ&室内ゲーム大会

令和3年11月

クリスマス会

令和3年12月

初詣&ぜんざい会

令和4年1月



各種ゲーム、飲食等のイベントを開催してきました。利用者さんの笑顔や掛け声、拍手等がたくさんみられ、有意義な時間を過ごしていただきました。

今後も月1回程度のイベントを考えていますが、コロナウイルスの感染状況によっては中止も考えられます。

ご了承ください。

3月は『eスポーツ』、4月は『食事会』を予定しています。

